

\*別紙1

## 2. 事業実施に係る動機

来年度OHANAは、小学生高学年・中学生になる子どもたちが中心となります。発達状況に合わせた居場所を、環境を通して保障することも大切だと考えている中、子どもたちの成長に伴い、事業所の狭さが1番の課題となり、保護者の方からも「大きくなったら、ここの場所（OHANA）は狭いかな…」といった声も多くいただき、小学校を卒業してからも支援が必要な子どもへの対応ができないという限界を感じています。併せて、児童発達支援Linoを利用している児童の保護者の方からも、「小学校に入学したら、OHANAにも通わせたい。」といった声を多くいただいておりますが、現段階ではOHANA・Lino共に受け入れが難しい状況です。

そして、狭く感じる事業所内で、わたしたちとはまるで違う感性や感覚を持った子どもたち・声の大きさや力加減の調整が難しい子どもたちが多い中、当事業所では『子どもたちひとりひとりが自分らしく過ごせる場所、自分の居場所だと感じてもらえる』ことを大切にしているにもかかわらず、子どもたちの行動を制限・制止することが増えています。そうした背景を踏まえ、定員を増やすのではなく新規立ち上げがベストだと判断し、ひとりひとりの発達段階を考慮した上で、低学年を中心とした居場所として現在のOHANAを活用し、新規事業所では現在のOHANA利用児童の発達課題を整理した上で、主に小学生高学年・中学生を受け入れていきたいと考えました。

また、世界との触れ合い方が独特で、じっくりと世界を楽しみ、ストレートに感情を表現してくれる子どもたちに出逢って5年。当事業所では、わたしたちが感じる当たり前の中にある“楽しいこと”に子どもたちを誘い掛け、地域に出て行くことを大切にしています。目の前の子どもたちを障がい者とは思わなくなる中、社会の無意識な偏見を肌で感じるようになり、健常者側の常識を疑うようになりました。そのような中でも、出掛けることをやめるのではなく、子どもたちがいろんな感情を抱きながら、いろんな世界を見ることで、自分に必要・楽しいと感じる世界を自身で掴みとってほしいと考えています。この子たちはとても魅力的で、わたしたちの心を豊かにしてくれる存在です。まだ5年ですが、子どもたちとたっぷりあそび、様々な社会体験を取り入れることで、子どもたちの輝きは増えています。迷惑行為・問題行動と見られがちなこの子たちですが、「問題行動・迷惑行為ではなく、大切な行動・行為だと伝えていきたい。たくさんの幸せや喜びを運んでくれる障がいのある子どもたちの存在を、社会に顕在化させたい。ありのままで許される・子どもたちがいたいようにいられる居場所づくりを続けたい。偏見を解消するためには、相互の自然な触れ合いが大切。」と強く思い、事業を拡大したい気持ちが高まりました。

幼い頃から家族と支援者に囲まれて暮らしている子どもたちに必要なのは、支援・福祉

目線だけでなく、一緒にあそぶ人・友だちのような存在だとも思っています。ひとりで楽しみを見つける・広げることが得意でない子どもたち、ひとりで散歩に出かけることでさえ、本人にとっては極めて危険が伴います。社会に出るための同伴者は多ければ多いほどよい。だからこそ、時には放課後等デイサービスという枠を越え、地域の子どもたちがあそびに来たくなる場所・気軽に立ち寄りたくなる場所づくりをしていきたいです。そして、少しずつ子どもたちの内面の世界と社会との橋渡しができたらと思っています。地域に根差すことで、障がいのある子どもたちの豊かな暮らしが守られ、福山市北東部（社会全体）が明るくなると信じています。